

第 5 回 北東アジア OSS 推進フォーラム 議長声明(参考訳)

2006 年 11 月 22 日 日本・福岡市

2004 年 4 月 3 日北京において日本・中国・韓国の IT 担当局長が署名したメモランダムと、同時開催された第 1 回北東アジア OSS 推進フォーラムの成果を受けて、日中韓各国でオープンソース・ソフトウェア(OSS)を推進する代表者は、日中韓の OSS 推進の状況を確認し、日中韓の今後の協力に関する共通認識を得て、2004 年 7 月 28 日開催の第 2 回札幌会合においてワーキンググループ(WGs)を設置し、共同で運営することに合意した。2004 年 12 月 3 日開催の第 3 回ソウル会合においては、次の 3WG が設立され、活動を開始した。

WG1: 技術開発・評価

WG2: 人材育成

WG3: 標準化・認証研究

2006 年 4 月 14 日開催の第 4 回天津会合において、フォーラム参加者は相互に意思疎通を図り、協力精神に基づいて活動を奨励するために、フォーラムを最大限に有効活用することを再確認した。

2006 年 11 月 22 日開催の第 5 回福岡会合において、日中韓のフォーラム参加者は各 WG から報告された成果と今後の計画を評価し、支持した。

1. フォーラム参加者は日中韓の協力関係とその精神は、フォーラム開始以来、着実に強化されてきており、価値のある成果を実現し始めていることを認識した。
2. フォーラムは、2006 年 11 月 21 日に福岡市で開催されたオープンソース・ソフトウェア推進のための第 5 回日中韓 IT 担当局長会議における結論を受けて、フォーラム活動を実施する。
3. フォーラムは、相互利益のために、多くの成果を生み出すよう、各 WG における協力を奨励し、これを強化する。3つの WG の成果概要は、次の通りである。

－WG1

A. サーバ・サブ WG

- (1) WG1は、オープンソースコミュニティに貢献するために、3つのオープンソースの協力プロジェクトを開始することに合意し、プロジェクトごとに目標、スケジュール、参加者等を決めた。3つのプロジェクトは、以下の通り。
 - (i) サーバリソース管理ツール(OpenDRIM)プロジェクト
Linux システム向け分散リソース管理技術・環境をオープンスタンダードに基づき開発する。
 - (ii) Linux カーネル互換性テストツール(Crackerjack)プロジェクト
Linux カーネルの新旧バージョン間の互換性をテストするツールを開発する。
 - (iii) データベース管理システム(DBMS)の性能評価プロジェクト
MySQL と PostgreSQL の性能・信頼性の評価データを共有する。
- (2) WG1は、「セキュリティ・ポリシーの柔軟性を支える」セキュリティ・エンティティに基づくアクセス制御モデル“である SEEN モデルについて、議論を継続することに合意した。

B. デスクトップ・サブ WG

- (1) WG1は、協調的な開発のために、1つのプロジェクトと1つのタスクフォースを立ち上げることに合意した。プロジェクトとタスクフォースは、以下の通り。
 - (i) OSS デスクトップ Linux 導入促進ロードマッププロジェクト
各国の調査結果に基づいて、OSS デスクトップの導入を阻害している課題を特定し、解決策を見つけて、各国における実施事項を決める。ロードマップ草案の第1版を2007年 1 月31日までに完成させて、継続的に更新する。
 - (ii) 専用端末向け Linux デスクトップ調査タスクフォース
専用端末向け Linux デスクトップを奨励することにより、OSS デスクトップの採用を加速する機会について調査する。次の成果として、少なくとも3種類の専用端末向け Linux デスクトップの候補を決める。
- (2) WG1は、中国と韓国が RPLinuxとBooyoの仕様に基づいて、Linuxデスクトップの参照プラットフォームホームを共同で開発し、日本がその結果を評価することに合意した。

－WG2

- (1) WG2は、OSS のモデルカリキュラムとコースウェアを段階的に共同で奨励する。WG2は、最初の報告書「北東アジア OSS 人材育成カリキュラム(第 1 版)」と、各国における試行プログラムの実施結果とを、次回会合で発表する。
- (2) 上記を実施するために、WG2はコースを選択する手続きを策定する。選択されたコースについて、以下の関連文書(かつ/または手続き)を開発する。
 - － カリキュラムと講義計画
 - － 教材
 - － 評価

－WG3

- (1) WG3は入力メソッドエンジン・インターフェースに求められる機能に合意し、2006 年末までに仕様書草案の第1版を策定する。
- (2) WG3はウェブ(WWW)の相互運用性の研究を行うためのSWG2を設置した。SWG2は、2007 年第一四半期中に技術報告書草案の第1版を策定する。

日中韓の各国はWG1、WG2 及び WG3 のうち一つで、調整役を引き受けるものとする。
現在の調整役は、次回フォーラムまで継続し、その後は毎年、交代するものとする。

第6回北東アジアOSS推進フォーラムは韓国で開催する。日時、場所に関しては、日本、中国と協議して、韓国が決定する。

日本の福岡市にて

桑原 洋
代表幹事
日本OSS推進フォーラム